

牛久：学校周辺に見る自然

第55号 牛久二小

2013年2月25日発行

＜冬の校庭でさがしてみよう！（植物編）～①ロゼット＞

2/8、今度は牛久二小4年2組との校庭の植物観察。今回は「ロゼット」といって、地面にべたべたと葉を広げている草の仲間。「ロゼット」とはもともとバラの花の形を意味する言葉ですが、それに似た形に葉を広げているのでこの名がつけました。中心部には小さな葉に包まれた芽があります。冷たい風を受けにくく日ざしを受けとめやすいロゼットは、この芽を守るのに適した形といえますね。



まずは、おなじみの**セイヨウタンポポ**。タンポポやオオバコなどは、冬に限らず一年中ロゼットで過ごしますね。これらは、どんな場所に生活していますか？いろいろな草、つまり競争相手の多い草むらの中などには育っていませんね。乾燥地や、まめに草刈りをして他の草が生えにくいところにみられることが多いようです。なぜだか、考えてみましょう。

壁と石の間に葉を広げていたセイヨウタンポポ。



互いによく似た**ハルジオン**(左)と**ヒメジョオン**(右)のロゼット。ヒメジョオンは葉の柄の部分をはっきりしている。

グラウンドのフェンスぞいでは、互いによく似たロゼットを見つけましたね。左が**ハルジオン**、右は**ヒメジョオン**です。葉の柄の部分をはっきりしているのがヒメジョオン。これらは、冬にはロゼットで過ごしますが、春になると茎を伸ばして茎に着く葉を広げます（ハルジオンでは花の時期にもロゼットの葉が残っている）。



厳しい冬は競争相手も少なくロゼットでしのぎ、春になると他の競争相手に負けないようにいち早く茎を伸ばし葉を広げる作戦。左は**アレチギシギシ**ですが、これも同じタイプ。ねずみのしっぽに似た形のコケ、ネズミノオゴケの群生する中に葉を広げていました。【理科支援員 宮内】

群生するネズミノオゴケの上に葉を広げる**アレチギシギシ**。春に中心部の芽から茎を伸ばす。